資料６

# 内閣府青年国際交流事業の目指す成果

○　目指す成果として６事業に共通する考え方

## １．外交的効果

（１）相手国との間で、政府レベルにおける友好・信頼関係を象徴。
（２）相互に自国の理解者を得て、民間レベルでの友好関係の促進。
（３）各国における大使館と連携し、外交活動に資する人的繋がり。

## ２．日本人参加者の人材育成

（１）組織でリーダーシップを発揮し、国際的場面で活躍できる人材
（２）地域において、国際的視野を持ち、地域活性化に貢献できる人材
（３）国際機関などで、異文化間、多国間の調整ができる力を持つ人材
（４）訪問地域や訪問国についての専門家

## ３．　国際貢献としての外国人参加者の人材育成

（１）日本を理解し、協力し合える人材
（２）組織でリーダーシップを発揮し、国際的場面で活躍できる人材
（３）地域において、国際的視野を持ち、地域活性化に貢献できる人材
（４）国際機関などで、多国間の調整ができる力を持つ人材

## ４．　日本への外国青年招へいプログラムにおける効果

（１）日本人が外国人とのコミュニケーションに親しみ、外国文化を理解。
（２）日本の若者のディスカッション能力の向上
（３）地域の国際化や地域経済への貢献

## ５．　訪問国における効果

（１）日本の平和的思考への理解促進
（２）日本人や日本文化への理解の促進
（３）訪問国の人々の異文化対応力の向上に貢献

**⇒　外交的にも重要な事業であり、内閣総理大臣の直轄の下で行うことが適当であることや、青年育成を目的とする事業であり、都道府県等の青少年担当部局と連携し、地域の国際化や日本青年の人材育成を図る観点から、内閣府が所管。**

# 内閣府青年国際交流事業の各事業の特色

## 東南アジア青年の船

○　日本とＡＳＥＡＮ１０か国との共同事業として実施。
○　ＡＳＥＡＮ各国と日本の次代の中核を担う青年が、互いの社会や文化について理解を深め、連帯感を持ち、生涯にわたる質の高い人的ネットワークを構築することを目指す。
○　約４３日間の航海。日本と５か国で訪問国（寄港地）活動。各訪問国では、２泊３日のホームステイ等を実施。

## 世界青年の船

○　交流対象国は、日本側が選定。経費は、基本的に内閣府が負担。
○　「ミニチュア・ワールド」での異なる文化・価値観のぶつかりを重視。船内でのディスカッション、交流、自主活動等が事業の中心。
○　多国間・多文化の中で調整・対応できる人材、組織や地域でリーダーシップを発揮できる人材を育成。

## 日本・中国青年親善交流

○　内閣府と中華全国青年連合会の共同事業。相互に経費を負担。

## 日本・韓国青年親善交流

○　内閣府と女性家族部の共同事業。相互に経費を負担。

## 国際青年育成交流

○　交流対象国は、日本側が選定。経費は、招へいを含め、内閣府が負担。
○　訪問国では代表青年として見られる。

## 青年社会活動コアリーダー育成プログラム

○　青少年、高齢者、障害者の３分野の非営利セクターの中核人材の育成を目的。交流対象国は、主に欧米先進国から、日本側が選定。
○　専門分野の知識と団体運営能力の向上と国際的視野の獲得を目的。

# 事業の特色とプログラムへの反映（例）

## 東南アジア青年の船事業

### ＜目指す成果＞

**① ＡＳＥＡＮと日本の各国間との信頼関係構築、連携の促進。**
**② ＡＳＥＡＮと日本の次代の中核を担う青年が、連帯感を持ち、絆を深め、生涯にわたる質の高い人的ネットワークを構築。**
**③ 人材育成の観点の特色**
- **日本とＡＳＥＡＮ各国の社会や文化への深い理解**
- **国際的な場面でリーダーシップを発揮できる人材**
- **東南アジアの専門家となる日本青年の育成**

### （１）ディスカッションやプレゼンテーションの向上

① 船内でのディスカッション
・コースに分かれて、専門知識を持つファシリテーターの下で取り組む。
・「青年の社会参加」を大きなテーマとして、８つのコースを設ける。
② 日本・ＡＳＥＡＮユース・リーダーズ・サミット（東京プログラム）
・別途公募の日本青年 100 名を交えての２泊３日の合宿型プログラム
③ 日本・アセアン交流プログラム（日本国内の地方プログラム）
・11 カ所で地方プログラム。その際に、地元青年と意見交換・文化紹介。
④ ナショナル・プレゼンテーション
・自国の社会状況や文化の発信。文化を見せるだけでなく、背景も説明。

### （２）日本とＡＳＥＡＮの各国事情の理解促進

① ナショナル・プレゼンテーション（船内、訪問国）
② 訪問各国での課題別視察

### （３）日本とＡＳＥＡＮ参加青年間の連帯意識の育成

① 船内での共同生活（３人１部屋）
② ソリダリティ・グループ：１１か国混成の基本的な生活グループ

### （４）各国の生活文化や国民との相互理解

① 訪問各国での地元青年との交流
② ホームステイ（日本とＡＳＥＡＮの寄港国５か国での６か所で各２泊３日）

# 事業の特色とプログラムへの反映（例）

## 世界青年の船事業

### ＜目指す成果＞

**① 日本と参加各国間との信頼関係構築、参加各国の親日的感情醸成**
**② 船上生活から生まれる連帯感によって、日本と参加国を含めた国際的ネットワークの構築**
**③ 人材育成の観点の特色**
**・国際的な場で活躍できる日本青年人材を育成**
**・国際的視野を持ち、地域においてリーダーシップを発揮できる日本青年人材の育成**
**・参加各国にリーダーシップに富んだ優秀な青年親日家を育成**

### （１）ディスカッションやプレゼンテーションの向上

① 船内でのディスカッション
・コースに分かれて、専門知識を持つアドバイザーの下、取り組む。
・「青年の社会参加」を大きなテーマとして、コース別に行う。
② ナショナル・プレゼンテーション（船内、訪問国）
・自国の社会状況や文化の発信。文化を見せるだけでなく、背景も説明。
③ ＰＹセミナー：参加青年が企画・主催するセミナー

### （２）各国事情の理解促進

① 各国での課題別視察（日本と寄港地で実施）
② ナショナル・プレゼンテーション
③ 地元青年との交流（寄港地）

### （３）日本青年と各国青年の連帯意識の育成

① 船内での共同生活（３人１部屋）
② レター・グループ活動（各国混成の基本的な生活グループ）

### （４）青年のリーダーシップの育成

① 自主活動、クラブ活動、ＰＹセミナーの企画・運営
② リーダーシップ・セミナーでの目標設定・振り返り・事業後の行動計画策定

### （５）日本の生活文化や日本国民と外国青年との相互理解

① 地方プログラム（２泊３日のホームステイを含む）

# 事業の特色とプログラムへの反映（例）

## 国際青年育成交流事業

### ＜目指す成果＞

**① 二国間相互交流事業により、日本と交流国との相互理解・信頼関係構築**
**② 人材育成の観点の特色**
**・国際的な場で活躍できる日本青年人材を育成**
**・地域においてリーダーシップを発揮できる日本青年人材の育成**
**・参加各国においてリーダーシップに富んだ優秀な親日家を育成**

### 【派遣プログラム】

（１）ディスカッションやプレゼンテーションの向上
① 合宿型ディスカッション・プログラムと成果発表（事前研修中・訪問中）
② 自国文化紹介（文化の披露に加え、背景も説明）

（２）訪問国についての理解
① 大統領や大臣への表敬
② 相手国大使館訪問
③ 課題別視察（４か所程度）や相手国の特徴的な場所の訪問
④ 日本大使館や訪問国政府（地方を含む）からのレクチャー

（３）各国の生活文化や人々への相互理解
① ２泊３日のホームステイ

### 【招へいプログラム】

（１）ディスカッションやプレゼンテーションの向上
① 日本青年との合宿型ディスカッション・プログラムと成果発表（東京・地方）

（２）日本事情についての理解促進
① 課題別視察（東京で２か所、地方で２か所程度）
② 地方の特色ある訪問先の設定

（３）日本の生活文化や人々との相互理解
① ２泊３日のホームステイ
② 日本の地元青年との都内視察や地元視察、参加青年とのディスカッション

# 事業の特色とプログラムへの反映（例）

## 青年社会活動コアリーダー育成プログラム

### ＜目指す成果＞

**① 日本と訪問国との非営利セクターの運営に関する情報交換**
**② 日本と訪問国との３分野（青少年、高齢者、障害者）における情報交換**
**③ 参加各国と非営利分野における国際的ネットワークの構築**
**④ 人材育成の観点の特色**

- **国際的視野並びに非営利団体のマネージメント力を持った、各分野で活躍する中核的リーダーの育成**
- **各分野における日本青年の高度な専門家の育成**
- **地域においてリーダーシップを発揮できる日本青年の育成**
- **参加各国にリーダーシップに富んだ優秀な親日家青年を育成**

### 【派遣プログラム】

（１）専門分野の知識向上と団体運営力

① ディスカッション・プログラム（研修中と派遣中）
② 課題別視察（基本的に意見交換を行う。）
③ 訪問国関係者とのセミナーの実施

（２）訪問国の制度についての理解

① 分野についての法律、制度を含めた訪問国政府からの講義・意見交換
② 課題別視察や関係団体訪問・意見交換
③ 現地日本大使館からの講義

（３）各国の生活文化や人々との相互理解　　１泊２日のホームステイ

### 【招へいプログラム】

（１）専門分野の知識向上と団体運営

① ＮＰＯマネジメント・フォーラム（２泊３日。非営利団体の運営に焦点をあててのディスカッション・プログラム。４０名の日本参加者を公募。）
② 地方において、現地関係者とのセミナーの実施。

（２）日本事情についての理解促進

① 分野についての法律、制度を含めた内閣府からの講義・意見交換
② 課題別視察や関係団体訪問・意見交換（東京で２～３、地方で３～４）
③ 受入県からの講義（条例・制度・民間団体との連携等）

（３）日本の生活文化や人々との相互理解　　１泊２日のホームステイ